

第2回 金沢市都市計画マスタープラン策定委員会 議事要旨

日時：平成19年11月29日 14:00～16:00

場所：金沢市役所 本庁舎7F 第3委員会室

【金沢市都市整備局長挨拶】

【アンケート結果説明】

- (委員) 金沢市の将来像として、今回は「豊かな自然と快適な住環境を備えたまち」が一番高くなったが、ここで言う自然とは何を意図しているのか？
- (事務局) 自然という単語からアンケート回答者が各自思い浮かべて選択したものである。自由意見では斜面緑地や庭の木々、用水、市街地背後の山などの保全に関する記述もあり、自然の捉え方は様々である。
- (委員長) この10年間で環境問題に対する意識がかなり高まっていることを反映しているように思われる。
- (委員) 低層住宅による都心居住や建物高さの混在解消に関する要望も高いことから、斜面緑地が見えるような住環境を望んでいるように読みとれる。
- (事務局) 前回委員会での指摘を踏まえて、お住まいの地域に関する設問については、そのイメージ範囲を小学校区で回答いただいているほか、アンケート対象を70歳代までに拡大し、問い合わせ先にメールアドレスを加えるなどの対応を行っている。
- (委員) 交通については、10年前は新交通システムの導入が1番であったが、今回のアンケートでは随分と下の方になった。
商工会議所や駅西開発協議会では、新幹線開業を見据えた新交通システムの導入に非常に力を入れているが、市民はどちらかというところバスの利便性向上を望んでいるようであり、金沢市としてアンケート結果を踏まえて、新交通システム導入の是非をどう考えているのか？
- (事務局) アンケートの回答者がどの程度の情報を知った上で回答しているかは定かではないが、金沢市としては新交通システムの導入を長期的な展望として捉えており、6～7年先の新幹線開業を見据えた場合、まずはバス交通の充実を新交通戦略の中で掲げている。
これまでいろいろな施策を展開しながらもバス利用者が減少し続ける状況において新交通などにバトンタッチしていくためには、ここ10年近い取り組みの柱として、現在の公共交通の主力であるバス交通の充実により、公共交通の利用者減少を食い止め、少しでも増加につなげて定着させることが第一歩と考えている。
- (委員長) この点については、選択肢の表現や順番なども影響している可能性があるが、もう少しチェックして考える必要があるかもしれない。
- (委員) 「観光・レクリエーション」と「観光レクリエーション」の表現が混在しているが、どちらかに統一すべきではないか。
- (事務局) 「観光・レクリエーション」に統一させていただく。

- (委員) 新交通システムについて、アンケートでの市民の要望比率が高まることで、その実現が早まるようなことはあるのか？
- (委員長) ないとは言えないが、なかなかあるとも言いにくい。
- (委員) 新交通システムについて一般市民は漠然とした感じでしか捉えておらず、それよりも身近な生活に関心があるように思われる。
- (委員) 新幹線開業を見据えた新交通システム導入に向けて、金沢市はどちらかといえばLRTを考えているようであるが、一度廃止した軌道を再度敷設するのは非常に大変である。このため、商工会議所ではトヨタのIMTS導入を検討しているが、最近は、トヨタさんも随分トーンダウンしてきている状況にある。
- (委員) かつては新聞報道でもモノレールや地下鉄の案が出たことがあるが、いつの間にか実現されるのかどうか分からない状況になっている。
- (委員長) 県と市の間では、一応短期的には導入しないと決定しているようであり、最近そういう報道も少なくなっていることも結果に反映されているのではないかと思う。
- (委員) 将来的にメインの公共交通は新交通システムになると思うが、サブとしてバスを利用しなければならないのであれば、並行して充実していく必要がある。
- (委員) アンケート結果に地域的な意識の違いがあるかどうかを集計した方がよいのではないかと？
- (事務局) 今回は速報として全市的な集計結果のみを提示しているが、今後、市域全体を14ブロックに分けて地域別に集計を行っていく考えであり、これによって地域毎に抱える課題が明らかになってくると思う。
- (委員) 地域毎で都市基盤の整備状況が異なるが、市民にとって不便に感じているところを早急に改善してほしいという思いは強いため、地域別の集計は是非とも行っていただきたい。
- また、これまでの取り組み評価と今後重視すべき取り組み、市全体の将来像と個別の都市づくりの方向性をクロス集計するなど、是非とも分析を深めていただきたい。
- (委員) 「観光・レクリエーション基盤の整備」が要望として高いことについて、世界文化遺産登録といった表現はないのに、なぜ世界文化遺産登録を視野に入れた積極的な活動を背景としていると判断できるのか？
- (事務局) 今回のアンケートは10年前と比較するために、できるだけ前回に近い設問表現を意識して作成したことから、直接的に世界文化遺産登録といった表現は用いていない。
- 世界文化遺産登録自体については、現在、別のセクションで暫定リスト入りを目指したマスタープラン策定を進めているところであり、現在最もタイムリーな施策として金沢市が力を入れているものである。
- 都市計画サイドとしても、もう少し大きな枠組みの中で金沢市が有する歴史的遺産を大事にしてまちづくりに活かすことが求められているた

め、後述の書き込みにおいては世界文化遺産登録という表現を使わせていただいたものである。

- (委員) 世界文化遺産登録は観光だが、アンケート結果の中には、親子で一緒に遊ぶ場所が少ないとか、若者が遊ぶ場所がもっと欲しいといったレクリエーション施設の充実を期待している人も多いのではないかと思う。
- (委員) 自由意見には、日常の苦情的な問題から、長期的な問題と種々雑多に書いてあり、本計画に活かせるものと活かさないものがあると思うが、これをまとめ直すのもかなり大変に思う。
- (事務局) 現時点では年齢層や居住地を併記して紹介させていただいているが、今後はある程度ジャンル別に整理していきたいと考えている。
- (委員) アンケート調査ではどうしても若い世代の意見が少なくなる傾向があり、本計画を実際に実行していく若い世代の意見を多く取り入れる工夫があればよかったと思う。
- (事務局) 回答者の年齢構成バランスを見ると、どちらかといえば高齢者の回答割合が高いものの、20代、30代の方の回答も一定の割合を確保できていると考えている。
ただし、腰を落ち着けてゆっくりと自由意見を記載していただいた方の中に20代はさすがに少ないように思う。
今後、クロス集計において、年齢層や性別などの傾向を分析していきたいと考えている。
- (委員長) 一定の年代別にクロス集計を行えば、若干の回答者数の多い、少ないは影響を与える水準ではないように思う。
- (委員) アンケート結果からは、市民の主観的な要望は把握できるが、元々はこれくらいで現状ではこうであり、これに対して市民の満足度が過去に比べてこれだけ上がったというように、行政としての客観的な指標も押さえておくべきではないか。
市民の思いだけでここまで足りないからやってほしいというだけでは、将来のマスタープランを考える上では十分とは言えないのではないか。
- (委員長) 非常に重要なご意見であり、定量的な目標値や満足度といった形で、地域別の差異、ばらつきを見ることも検討していただきたい。
- (委員) まちづくり活動への参加意向として「参加はできないが、情報は知りたい」が最も多いことについては自分も頷けることであるが、情報を知らせることをどのようにしていくかということで、意識が変わってくる可能性があるのではないかと思う。
- (委員長) そのとおりであり、必ずしも住民に対して十分に情報を知らせているとは言えないように思われ、もっともっと情報公開していく必要があるように思う。

【将来都市像及び前回委員会指摘事項対応説明】

- (委員) 交通に関する将来像に関しては、幹線道路についてのみ記載しているが、アンケート結果を踏まえれば、最も要望の高い生活道路の整備などに関する記述を何らかの形で入れておく必要がある。
- 一方で、パーク&ライド駐車場については、希望する市民がほとんどいないのが現状であるが、都市政策の観点からすれば重要であり、宣伝の仕方も含めて今後の取り組みが重要である。
- また、歩けるまちづくりや公共交通を利用したまちづくりを進める上では、単に公共交通だけでは完結しないため、パーク&サイクルライドの推進、駐輪場の整備についてもふれておいた方がよいと思う。
- その他、市民生活を支える施設についても、多くの要望があるのに対して、土地利用に関する将来像の中であまり触れられていないようであり、言葉だけでも記載しておくべきではないかと思う。
- (委員長) 都市計画マスタープランでは、具体的な細かい内容をすべて記載しなければならないわけではない。交通に関しては個別計画が既に策定されているため、その範疇の中で記述していく必要がある。
- (事務局) 交通については、ご指摘の内容が新交通戦略にも記載されており、その内容を本計画にも反映させるとともに、アンケート結果で市民から強く支持された内容についても、将来都市構造においても何らかの形で記述していきたい。
- なお、都市計画マスタープランの全体構想としては、今後、個別の都市づくりの方針、重点的都市づくりのプロジェクトとして次回委員会に提示させていただく予定であり、その中でももう少し具体的な方針を記述していく考えである。
- 今回の提示部分は、20年先を見込んだ全体的な都市像、都市構造に関する内容ではあるが、ご指摘を踏まえて、できるだけアンケート結果の反映、整合を行っていきたい。
- (委員) 中心市街地の活性化についても、定住促進を含めて基本的な考え方は都市計画マスタープランの中でも記述しておく必要があると思う。
- また、都市づくりの目標の一つに「持続可能な」という表現が使われているが、全市的な将来像に関わる内容であることから、一つの目標だけに関して触れる内容ではないのではないか？
- (事務局) アンケート結果からも、市街地を拡大して都市施設を新たにどんどん整備していく方向から、既存の社会資本を有効に活用する成熟した都市づくりを目指す方向にシフトするような傾向がうかがえる。これを踏まえて、環境保全、都市計画の効率化、安全、安心な暮らしの確保などを総じて都市づくりのテーマに「持続可能なまちづくり」と表現させていただいたものである。
- しかし、ご指摘のとおり、これはほぼすべての目標に共通して関わる内容であるため、目標の表現を見直しさせていただきたい。

- (委員) 将来都市像に関するアンケート結果において「安全安心に暮らせる災害に強いまち」が4割の方に回答いただいているが、都市づくりはすべて安全・安心のもとで成り立っており、そのような観点からの記述が抜けているように思う。
- また、今後、高齢化が非常に問題となると思われるが、都市のコンパクト化の議論の中では、現状での地区毎の高齢化率分布を把握しておくことも必要ではないか？ 災害発生時のリスクを考慮すれば、単に中心市街地に人口を集中させるよりも分散させた方がよい面もある。
- 一方、金沢市では大学の郊外立地が進んでしまって、若者が郊外に住んでいる状況にあるが、中心市街地の活性化を図る際に、今後これらを政策的にどのように誘導していくのかについても都市計画マスタープランで記述があってもよいのではないかと思います。
- (委員長) 都市のコンパクト化に向けた提案は、市街地形態や交通の話だけであり、人口バランスなども含めて、コンパクトシティの概念を膨らませてもらうように思われ、安全・安心に関わる内容についても全般的にもう少し盛り込むことを検討すべきである。
- (委員) 都市のコンパクト化に関して、現在の商業施設は車でアクセスするところが多いが、そこに公共交通を引き込むようなことがあるとすれば、概念的なイメージではなく、具体的な施設分布を背景として図を描いたらどうなるのか興味のあるところである。
- (事務局) 人口バランスを含めてコンパクト化に向けた考え方を再検討する際に参考とさせていただきたい。
- ただし、本来、都市のコンパクト化については、本計画が目指す20年間ではなく、50年先ぐらいを念頭に一つの方向性を提示するものであり、郊外型の大規模小売店舗が50年先にも永続的にそこに存在しているかどうか大いに疑問がある中で、大型店舗の存在を意識した則地的な標記は困難と思われる。
- (委員) 大型店舗は20年ぐらいで撤退するかもしれないが、郊外部の市街地開発の中には住宅地や公共施設もあるため、都市のコンパクト化にあたっては、郊外部においても将来的な居住者の高齢化に配慮して、ある程度の都市拠点位置づけしておくことも必要と考える。
- (事務局) 将来都市構造図にて地域中心拠点を鉄道駅周辺に位置づけているが、今のご指摘に対しては不十分であり、今後、土地利用の方針を検討する中では、もう少し細かなレベルの地域商業地を位置づけていきたい。
- コンパクト化のイメージ図においては、交通結節点における地域商業地機能の配置は必要であり、そのような場所がフィーダー系の公共交通との結節点であり、戦略的にパーク＆ライド駐車場とリンクさせて配置していくことも必要と思われる。
- (委員長) 地域商業地という名称は商業に偏っている印象があり、もう少し一般化した名称に変更した方がよい。

- (委員) 東金沢駅や金沢駅などの交通拠点から比較的近い金沢城北市民運動公園の周辺が市街地ゾーンに位置づけられていないのはなぜか？
- (事務局) 市街化区域を法的に拡大していく際には、将来人口フレームに応じた市街化区域面積と整合調整を図るルールがあるが、現在、金沢市において市街化区域を拡大する余地がほとんどない状況にある。
これを受けて、将来土地利用に関する方針の中でも、今後は原則として市街化区域の拡大を行わない方向性を打ち出している。
このため、今回は現実的な標記で金沢城北市民運動公園周辺を市街地ゾーンに含めていないものである。
金沢城北市民運動公園自体については、近隣住民だけでなく、金沢市全体での広範囲な利用を念頭とした公園であるため、必ずしも周囲が市街地ゾーンでなくてもよいと考える。
- (委員長) この部分は、立地条件からすると当然市街地として計画すべきで場所であり、行政としてもこれまで土地区画整理事業をずっと模索してきた経緯があるが、なかなか地元が受け入れない状況が続いて現在に至っている。
- (事務局) 現在の図上において金石沖の埋め立て地の標記が抜けているが、今後このエリアの具体的な整備方針、計画等を県に確認した上で標記させていただきたい。
また、金沢港周辺のリンクス付近について、現在の図面では市街地ゾーンとして着色されているが、金沢市としては市街化する考えがないことを県と確認しているため、自然環境ゾーンとしての着色に訂正させていただきたい。
- (委員) 崎浦地区にも果樹園が広がっていることから、現実的には当該地区も農業環境ゾーンに含まれるのではないか？
- (事務局) 全体構想レベルでは大きな括りで表現しているが、今後、地域別構想を立案していく中では、もう少し詳細な表現をしていく考えである。
- (委員) 自然環境ゾーンについては、全く自然のまま手を入れない山地と、ある程度手を加える中山間地とを分けて考えた方がよいと思う。
- (事務局) 自然環境を守っていくためには、中山間地集落で山林の面倒を見ていただくことも重要であり、そのためには中山間地集落の維持が必要と考えている。本来的には農業サイド計画の中で検討する内容かもしれないが、あえて本計画の中でも文章として少し記述させていただいた。
中山間地の扱いについては、その表現方法を含めて検討させていただきたい。
- (委員長) 金沢市の市街地は山林に非常に近接していることから、中山間地が大切な役割を担っており、本計画でも積極的に扱ってもよい印象がある。
- (委員) 間伐などの手入れをしないと山林が荒廃するということが最近言われており、広域的な自然を保全するエリアの位置づけが必要なように思う。

- (委員) 都市のコンパクト化に向けた考え方の中では、公共交通を軸としているが、これからの持続可能な都市づくり、環境問題を考えれば、自転車利用も念頭とした環境づくりも考えていただきたい
- (委員理) 景観・歴史構造図に示されている3箇所の歴史文化拠点について、他の計画で位置づけがあるのか？
- (事務局) 世界文化遺産登録の関係では、まちなかゾーン自体が大事なエリアとして位置づけられるが、その中でも、卯辰山寺院群、金沢城址・小立野寺院群、寺町寺院群が重要視されてくるということであり、関係部署から方向性をいただいて標記したものである。
- (委員) 沿道景観の形成において、「金沢にふさわしい品格ある沿道景観」とは具体的にはどのようなものか？
- (事務局) 景観については、現在、別途同時並行で景観基本計画を策定中であり、具体的な基準の記述は部門別の計画に任せたいと考えているが、この表現については確かに分かりにくい面もあり、担当課と相談させていただきたい。
- (委員) 外環状道路のような郊外の道路と都心部の道路とでは、沿道景観の意味合いも異なるため、一様な表現で記載するのはいかななものか？
- (事務局) 現在、金沢市では景観基本計画の他にも緑のマスタープラン、歴史的建造物に関わるマスタープランを別途並行して策定中である。
景観については、まちなみに与える影響が大きいことから、景観基本計画の中で多岐にわたって詳細な計画を現在検討中であり、全体像としてお互いに整合調整を図りながら取り組んでいることをご報告させていただきたい。
個別計画については、それぞれ委員会を設けて検討いただいており、それぞれのアウトプットにあわせて本計画を手直しさせていただくこととなる。現時点で提示できる内容を記載させていただいたものであり、個別計画の進捗に応じて、少しずつ内容を進化させていきたい。
- (委員長) 金沢市においては、市街地背後の山並みも非常に大事な景観だと思われる、景観・歴史構造図においても記載した方がよい。
また、構造図という表現が適切かどうか検討いただきたい。
- (事務局) 次のステップである都市づくりの方針の中では、個別にもう少し詳細な図面を提示する予定であるため、それと区分するためにここでは構造図という名称を使っているが、表現は再考させていただく。
- (委員) 県の農林水産部として農業環境、自然環境のゾーニングに異論はないが、市街化調整区域の中での無秩序な開発計画は是非とも避けていただくようお願いしたい。
- (事務局) 都市計画法の改正により、いわゆる市街化調整区域での無秩序な開発は例外規定も含めて基本的になくなっており、国の施策としてもコンパクトシティ化が打ち出されている。

- (事務局) このため、金沢市においても、今後、新たな郊外型の開発は基本的にないとの方向性を都市計画マスタープランの中で記載していくことになると思う。
- 加えて耕作放棄地などの問題についても、庁内の農林部局と議論になっているところであり、都市サイドとして無秩序な開発を抑制するだけでなく、農業振興についてもあわせて記述していかないと対処できない問題として現在協議している最中である。
- (委員) どこまで具体的な内容をこの都市計画マスタープランで扱うのか、最終的なアウトプットはどのようなものになるのか？
- (事務局) 計画策定の流れを資料にお示ししているが、今回は都市づくりの将来像の部分を議論いただいている。次回は、土地利用、都市基盤などの個別に具体的な方針を提示して議論いただく予定であり、地域別構想及び実現化方策については、来年度に詰めていく予定である。
- (委員長) 都市のコンパクト化に向けた考え方の中に記載されている内・中環状ゾーン、外環状ゾーンはどこに定義されているのか？
- (事務局) 新交通戦略に提示されている名称であるが、表現を考えさせていただきたい。
- (委員長) 都市のコンパクト化イメージ図は、都市計画の分野でフィンガープランと言っているが、これをどう扱うか、少し名称を考えてもよいのでは？
- (事務局) これについては、今回の都市計画マスタープランの目標年次の範疇だけではカバーしきれない部分もあり、少し時間をいただいた中で、提示の仕方を含めて全体を考えながら検証させていただきたい。
- (委員長) 今後の予定についてはどうか？
- (事務局) 次回の委員会は平成 20 年 2 月頃の開催を予定しており、よろしくお願ひしたい。

以上